



宝木中学校だより

たくましく さとく あかるく いきいきと

令和3年1月号
発行責任者 手塚宏行

新年のごあいさつ

あけましておめでとうございます。

旧年中は新型コロナに翻弄された年ではありましたが、そんな中でも、工夫して行った修学旅行や断郊協歩大、や普段の活動等において、生徒の立派な態度を目の前にし、本校生徒の素晴らしさを感じた年でもありました。

このコロナ禍は、生徒に数々の試練を与え、あたりまえのことが実はあたりまえでないことを知らしめさせられたとともに、ある意味では持てる英知を結集させて課題に対応する力が高まりつつあるとも言えそうです。

これからの3か月は、3年生にとっては自分の進路を決定する大切な時期であり、1、2年生においては、進級を前にして基礎をしっかりと固め、新たな学年に備える大切な時期となります。

昨年来より、感染制御と経済の両立のバランスをどうとるか、国や自治体で議論されてきましたが、学校でも生徒の感染防止と教育活動の充実の両立のバランスをどこにおくか、難しい選択を迫られていることは、構造的に同質であります。

このような中ではありますが、新年を迎え、ますます、生徒一人一人が輝けるよう指導や支援をしていきたいと考えていますので、本校の教育活動に対する変わらぬご理解やご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



主な大会結果等

大会名等		結果・氏名	
県中学校総合体育大会 スピードスケートの部 ※出場が決定した全国大会は、緊急事態宣言が発令されたことを受けて中止になりました。	1年	男子団体 優勝	
	1年	5000m 1位	宇賀神 舞丈
	1年	1500m 2位	宇賀神 舞丈 3位 木村 朋暉
	1年	1000m 3位	木村 宙暉 4位 木村 朋暉
	1年	500m 2位	木村 宙暉
市バスケットボール協会長杯争奪大会		女子 第3位	
宇河地区中学1年生バスケットボール大会	1年	女子 Aリーグ第3位	
県央地区アンサンブルコンテスト		打楽器三重奏 金賞 猪瀬 那月、原田 沙知、生田目 侑愛	
		サクソフォン四重奏 銀賞 荒川 美緒、飯塚 美月 駒場 妃芽佳、糸井 大道	
		金管八重奏 銅賞 木村 祥麻、星野 桜花、並木 星奈、 戸崎 凜、大野 叡星、谷田部 響生、 山田 瀬成、池田 紗菜	
県アンサンブルコンテスト		打楽器三重奏 銀賞 猪瀬 那月、原田 沙知、生田目 侑愛	
断郊協歩大会 俳句・川柳コンクール	最優秀賞	1年	踏み入れば 映画の世界 地下空間 池田 こころ
	優秀賞	2年	秋の道 自然とあふれる 友の笑み 田代 遥香
		3年	歩くたび パリパリ音出す まほろばの道 市川 恭平
中学生人権作文コンテスト	1年	銀賞 池田 紗菜	
下野教育書道展	2年	銀賞 半田 実久	
	3年	銀賞 鹿住 あやね	

◇◇2月の主な行事予定◇◇

3日(水) 全校朝会	16日(火) 3年生を送る会
8日(月) 県立高特色選抜(～9日)	22日(月) 専門委員会 中央委員会
9日(火) 1、2年期末テスト	24日(水) 全校朝会
15日(月) 特色選抜内定	

※学校だよりは、個人情報保護に対応し、個人名や写真は本人等の承諾を得て発行しています。

※学校だより(カラー版)は、ホームページに掲載しています。「宇都宮市立宝木中学校」で検索してください。

地域の方からの話

地域の方から次のようなお電話をいただきました。

カラスが散らかしたゴミステーションのゴミを、登校途中の3年生の砂川 紗月さんと勝城 咲良さんが見つけ、自ら掃除してくれました。「本当にありがとうございます。感謝しています。」とのことでした。大変立派な行為であると思います。

自己肯定感を育む

本校では、ここ数年間学校目標の中心に自己肯定感の向上を挙げて取り組んで参りました。以下は昨年と同様の話ですが、大切なことだけに再掲したいと思います。

自己肯定感とは、何を指すのでしょうか。一言でいえば、
「自分は生きているだけで価値がある」「誰かに必要とされている」
「自分は大切な存在なんだ」「自分は愛されている」

と肯定できる前向きな感情です。これが高い子どもは、何事にも挑戦していく強い心「折れない心」を持っています。

よりやさしく言えば、叱られた時の反応で次のようになります。

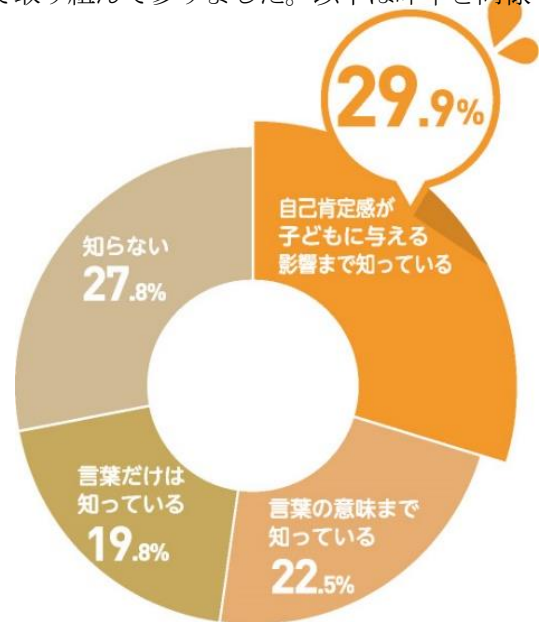
(1) 自己肯定感が高い人の特徴

- あまり落ち込まない
- 自分のミスを素直に認める
- より自分を高めるための意見として歓迎する

(2) 自己肯定感が低い人の陥りやすい傾向

- 必要以上に落ち込む
- 自分はダメな人間だと感じる（拡大解釈）
- 「絶対にミスはダメだ」と自分を追い込む（完ぺき主義）
- もしかして嫌われているのではと思う（疑いや不安）
- 逆ギレする（拒否反応）

『「ほめ写」って知ってる？子どもの“自己肯定感”を高くする方法』より



では、自己肯定感が高い子どもに育てるためにはどうしたらよいのでしょうか。

次のようなかかわりをすると格段に向上します。

○子どもの話を出来るだけ目や表情を見ながら聞く。また子どもの言い分をまづはよく聞く。

（お父さんが自分の意見を言いやすい雰囲気や環境をつくる）

「悲しいよね」「悔しかったんだね」

「それはお母さんとっても嬉しいわ！」

など適時共感することも心がけましょう。

○「頑張ったね」「よくやったね」等の認める、褒める言葉を使う。

（誰かと比べたマイナスの発言は避ける。）

子どもの「今」を認め、それに至るまでの努力した過程や過去の本人の状況と比べて、褒めてあげましょう。

○子どもが自分で選択する機会を増やす。

○ダメな事をしたら、子どもの将来の事を考えて愛情を持って叱る。

○社会や家庭、学校でのルールを守ることの大切さを教える。

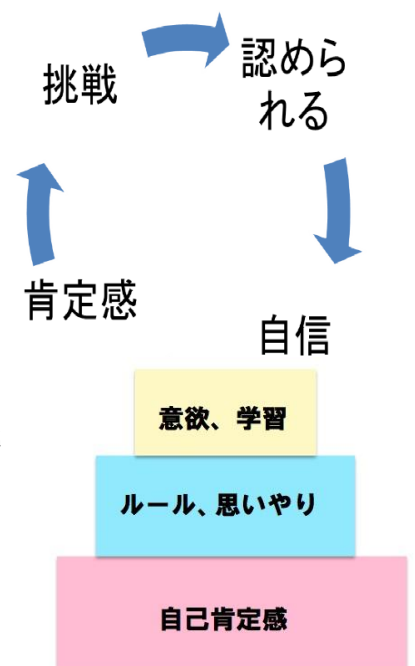
そして、挑戦心、達成感、規範意識等もバランスよく育む。

「また頑張ればいいよ。次はきっと上手くいくよ。」「挑戦したあなたは立派ね。」

と言って、子どものガッカリした気持ちを癒す存在になってください。そうすることで、子どもはまた意欲を持って挑戦するでしょう。

また、我々大人自身も、自らの自己肯定感を高めていくことも子どもにいい影響を与えることができます。このようなかかわりをしていくと、右の図のように、意欲、学習が高まる土台ができると言われています。

以上のような基本的な考えのもと、今後とも子どもの自己肯定感を育てていきたいと思いますので、ご理解、ご協力の程よろしくお願いします。



体罰等に係る相談について

体罰等に係る相談機会（第2回）を、1月28（木）、29（金）の2日間設けましたので、該当することなどありましたら、副校長、校長まで、お電話をくださいますようお願いいたします。（TEL 621-3959）